

## 私たちと一緒に活動しませんか

リブ・イン・ピース 9+25は、2008年10月、日本国憲法に掲げられた平和的生存権を大事にし、戦争放棄を謳った9条と健康で文化的な最低限度の生活を保障した25条の実現をめざして作られた市民グループです。外ではイラク戦争やアフガニスタン戦争、内では格差拡大と貧困、若者の失業など、生きることさえ困難な世の中を少しでも変えられればと思って活動しています。

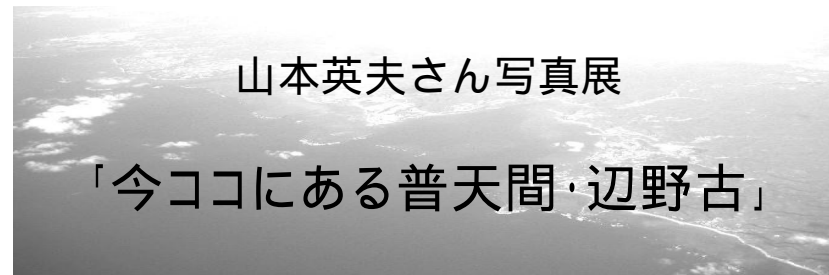
今年は、米軍基地問題、日本軍「慰安婦」問題、朝鮮学校無償化問題を中心に活動をおこなってきました。米軍基地問題では、普天間米軍基地閉鎖を求める街頭署名をおこなったり、「本土」の人間としての立場を問い直すために沖縄出身の方の話を聞く会を設けたりしました。

日本軍「慰安婦」問題では、日本政府に解決を求める署名運動や、大阪市や堺市の議会における意見書の可決の運動に積極的に関わってきました。「慰安婦」被害者の聞き取り調査をおこなってきた川田文子さんを招いての講演会もおこないました。

朝鮮学校無償化問題では、朝鮮学校出身の歌手グループ志遠 チウォン を招いて「民族差別・排斥に抗するための集い」という“歌い語り”の会を開きました。また、朝鮮学校の現状を描いたドキュメンタリー映画『ウリ・ハッキョ』を見たり、民族学級に関わっている現場の教師を招いてお話を聞き、この問題についての認識を深めました。

脳死問題や原発・プルサーマル問題に関してメール・FAXで政府に意見する活動をおこなったり、日本国憲法に関する学習会や被爆者を招いての講演会もおこないました。また医療・教育の無料政策を実現し、持続可能な社会を模索しているキューバに学ぼうと「キューバを知る会・大阪」との共催で、戸井十月さんやアレイダ・ゲバラさんの後援会も開催しました。部落差別、在日などをテーマにしたフィールドワークもおこないました。

日常の活動としては、月に1回「リブ・イン・ピース@カフェ」という例会で様々な問題を議論し、その活動報告を会報「リブ・イン・ピースだより」に掲載して会員に配布しています。また、ホームページやブログを通じて、その時々の問題点についての意見を発しています。最近、映画を見る会として「リブ・イン・ピース@キネマ」も始めました。



## 山本英夫さん写真展

### 「今ココにある普天間・辺野古」

#### 開催にあたって

11月28日の沖縄知事選では、普天間基地撤去・県内移設反対を一貫して訴えていた新人の伊波洋一前宜野湾市長が、現職の仲井真弘多氏に敗れました。しかしながら、これまで県内移設を容認してきた仲井真氏がはじめて「県外移設」を公約に掲げるようになったのは、沖縄県民の、「“世界一危険な普天間基地”をいつまで放置しておくのか」、「どうして辺野古の自然を破壊して新たな基地をつくらなければならないのか」という民意が、もはやあの手この手の方策でごまかすことは不可能な勢いに達したからです。「本土」の0.1%の面積しかない沖縄に在日米軍基地の75%が存在します。その現状に「沖縄差別」だという怒りの声が上がっています。

この写真展を開催したのは、大阪・関西の人に沖縄の実態、まず基地のある町の実態、基地が移されようとしている町の実態を知ってほしいと思ったからです。写真とパネルをごらんになって、もしも私達の住居や学校や病院のすぐそばにこのような米軍基地があるなら、どんなふうを感じるだろうかと想像してほしいからです。

沖縄に米軍基地が集中しているのは1950～60年代に「本土」にいた部隊が沖縄に移っていったからです。現在、大阪・関西には米軍基地はありません。しかし元々伊丹には米軍基地がありました。それが沖縄に移っていったのです。「大阪に基地がない」ということは「沖縄にある」ということとつながっています。だから基地問題は、沖縄の問題というのではなく、大阪に住む私たちひとりひとりの問題なのです。そのような気持ちを「今ココにある普天間・辺野古」という写真展の題名に込めました。

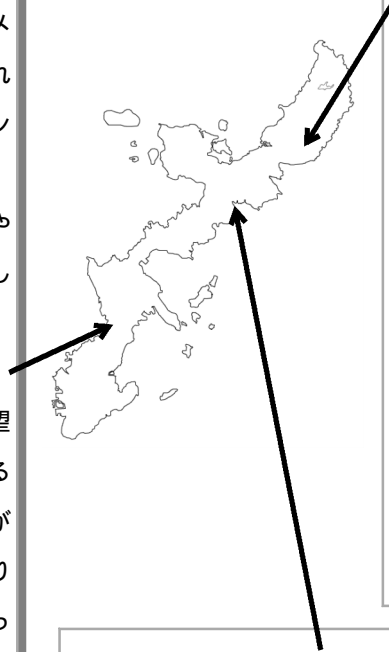
どうぞご覧になってください。

## 普天間基地

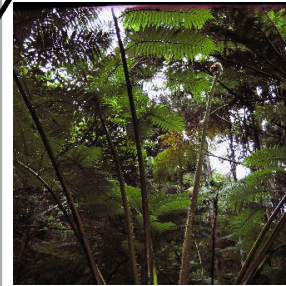


普天間基地の全景。アメリカ国内基準で設定されているクリアゾーン（土地利用禁止区域）に、普天間基地では、民家や学校、病院までが密集しています。

宜野湾市嘉数台公園展望台から普天間基地を見ると、本当に民家と基地が近接しているのがわかります。いつ事故が起ころうともおかしくない状況であることが実感できます。



## 高江ヘリパッド建設予定地



ひがしそんたかえ  
東 村高江は、ヤンバルクイナなどの希少生物の生息地としても知られています。そこに米軍は「ジャングル戦闘訓練場」を作り利用しています。

さらに現在、新たに6つの米軍ヘリパッド(ヘ

リコプター着陸帯)が、高江の集落を囲むようにして建設されようとしています。

高江の人々は、工事中止を求め、工事現場の前での座り込み、説得や監視活動をおこなっています。



## 辺野古新基地建設予定地



米軍と日本政府は、普天間基地撤去の条件として、名護市<sup>ひがし</sup>辺野古への新基地建設を押しつけようとしています。

現地では、反対の座り込みが行われていま

す。座り込みは体力的に大変で、海岸からの紫外線が当たって、やけどをしたような状態になります。それでも、2000日以上続けられています。

